

【乳汁検査まとめ】

はじめに

2021年において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

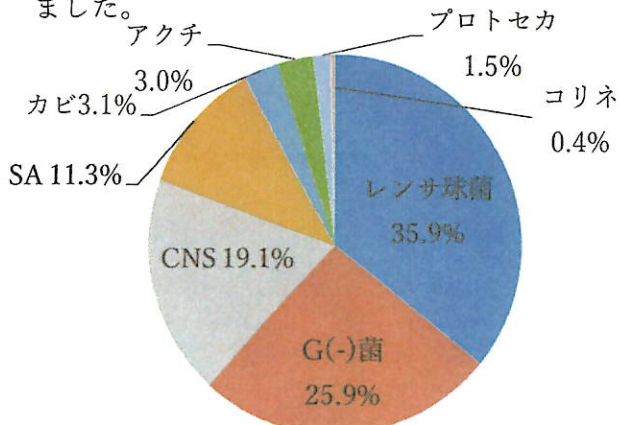
検査頭数は2106頭、検査分房数は4032分房で、菌の生えた分房数は2098分房、菌の検出されなかった分房数は1934分房でした（それぞれ重複を含む）。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

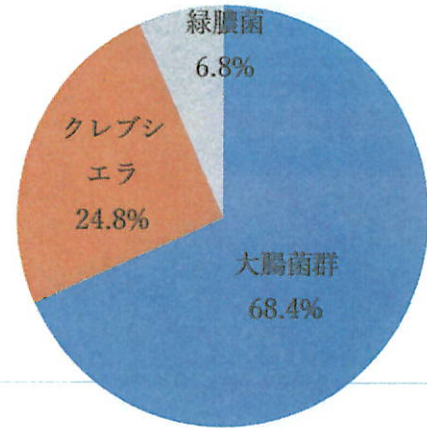
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記



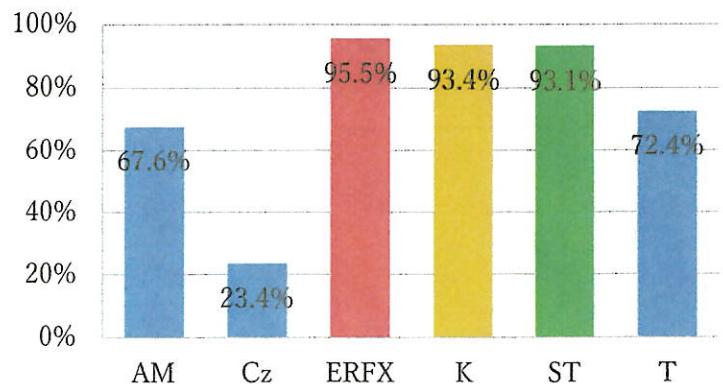
グラフ2 G(-)菌割合

※大腸菌群は大腸菌、その他の大腸菌群を含む

グラフ1にてG(-)菌としたものの内訳です。G(-)菌の発生分房数は487でした。大腸菌群が333分房で、割合は68.4%となり最多でした。クレブシエラは121分房で、割合は24.8%でした。緑膿菌は33分房で、割合は6.8%でした。緑膿菌の発生数が増加したのは、特定農場での発生が増加したことが原因です。

G(-)菌感受性割合

大腸菌群(333)



Total Herd Management Service

グラフ3 大腸菌群感受性割合

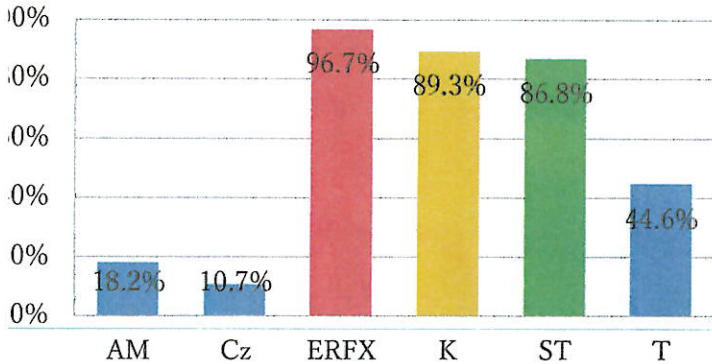
感受性割合の上位3つの薬品はERFX(バイトリル10%)、K(カナマイシン・タイニーPK)、ST(トリオプリン)でどれも感受性割合は90%を超えています。これは昨年までの結果と同様です。T(OTC注、OTC軟膏)の感受性割合が今年の51.9%から72.4%へ上昇しました。これは数年前からT(OTC注、OTC軟膏)の大腸菌への耐性化によって、使用頻度が減少したためと考えられます。

したが、クレブシエラに対しては依然低い感受性割合を示しました。

大腸菌やクレブシエラを疑う乳房炎に対しては、臨床症状等でこの2菌種を区別することは難しく、検査してみないと判定できません。このことと、T(OTC注、OTC軟膏)の感受性割合を踏まえると、依然として最初の抗生剤選択において、T(OTC注、OTC軟膏)は選択しづらいと考えます。

来月はSAやOS等のG(+)菌の感受性割合を紹介いたします。

クレブシエラ(121)



富田大祐

グラフ3 クレブシエラ感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は大腸菌群と同じERFX(バイトリル10%)、K(カナマイシン・タイニーPK)、ST(トリオプリン)です。昨年より3薬品とも若干感受性割合は上昇しています。大腸菌群と比較してもERFX(バイトリル10%)は同等の感受性割合を示しました。K(カナマイシン・タイニーPK)、ST(トリオプリン)は大腸菌群と比較して若干低いものの、どちらも感受性割合は85%を超えています。T(OTC注、OTC軟膏)は今年の40.0%よりは上昇してはいるものの、44.6%と依然低い割合となりました。

緑膿菌は検出分房数33で、感受性割合はERFX(バイトリル10%)が72.7%、K(カナマイシン・タイニーPK)、ST(トリオプリン)、T(OTC注、OTC軟膏)はそれぞれ3.0%となりました。

最後に

大腸菌群、クレブシエラどちらもERFX(バイトリル10%)、K(カナマイシン・タイニーPK)、ST(トリオプリン)の3薬品が高い感受性割合を示し、T(OTC注・軟膏)は大腸菌群では72.4%となりま



Total Herd Management Service